課題解決力ナンバーワンへ

メタルワングループの総合力 1

五十鈴

〝協進化〟で薄板業界けん引

固有の価値や強み、社会へ提供

メタルワングループの中核コイルセンター、五十鈴グループは2030年に「未来社会づくりに参画する会社」を目指す10年ビジョン「I―Society X」を推進中。25年度から始まった第二次中期経営計画では25年度の基本方針に「志の追求」を掲げた。従来のトップダウン型経営から脱却し、社員一人ひとりが自らの理想を言語化(志)し、自己実現を目指す組織への変革を進める。続く26年度は、磨いた個の力を組織の力としてアウトプットする「真価（シンカ）の発揮」をテーマに据え、固有の価値や強みを明確にし、社会へ提供していく体制を整える。

その先に見据えるのが「FX（ファン・トランスフォーメーション）価値の創造」だ。メタルワン含めた取引先やビジネスパートナーとの協創を通じ、五十鈴の「シンカ（真価）」を体感してもらうことで、取引関係を超えた〝五十鈴ファン〟を増やす。ファンとの強固な信頼関係こそが、不透明な時代における同社の競争優位性となるとともに、メタルワングループの総合力強化につながる。

鈴木社長

中核事業のスチールサービス部門では、国内9拠点を擁する業界最大手のコイルセンター(CC)として、EV化や地政学リスクに対応したサプライチェーン(SC)の最適化を推進していく。諸コストの上昇を適切に管理し適正に販売価格に反映することによる持続可能な収益の確保に加え、納期対応や品質向上への取り組みを徹底。現場での「凡事徹底」と、各拠点における「改善の森」活動を通じて、「無災害(労災ゼロ)」「品質クレームゼロ」の目標を掲げる。デジタル戦略ではソリューション部門による「システム×コンサル」の複合提案を、CC業界に展開。自社の効率化にとどまらず、同業者へのシステム販売や取引先とのシステム共有により、業界全体のDX化へ貢献するプラットフォーマーへの進化を目指す。

五十鈴グループで初めて太陽光発電設備を導入した小山サービスセンター

脱炭素化に向けたGX施策では、25年度中に全拠点のグリーン電力化が完了。さらに五十鈴関東小山サービスセンターへの太陽光発電導入を皮切りに、次なるステージとして「節電施策」による使用電力の削減に挑む。このほか物流DX「AIR」や、サーキュラーエコノミーへの貢献も具現化している。

これらを支える土台として、女性活躍の促進や報酬制度の刷新を含むDE&I経営を推進中。24年に「働きがいのある会社」調査へ初参画し、25年には認定を取得した。30年に向けて、財務・人的・社会・自然資本を統合した価値創造モデルを完成させ、社会にとって不可欠な存在となる地位を確立していく。

原田直樹メタルワン国内自動車・電機・薄板BU長は「五十鈴は、当社の国内薄板SCの中核を担っており、浜松鋼板加工がグループに加わったことにより、新たにブランキングやTWBの機能を備え、五十鈴グループとしての供給体制が強化・拡充される」と話す。また「五十鈴の業界における長年の知見を凝縮したソリューション事業は、システムの外販を通じて薄板業界全体の効率化に貢献する。CC事業で蓄積した独自のノウハウを収益化する『知財型経営』への新化（シンカ）も期待したい」と述べる。

（伊藤　健）

メタルワングループ会社連載でレポート

メタルワンは今年度からの3カ年中期経営計画で、グループ会社を含めた「ワン・メタルワン」での課題解決力向上を掲げる。「深化」「進化」「新化」という三つの「シンカ」に向け、具体的にどう施策を進めているのか。グループ各社、そして所管BUへの取材から連載で取り上げる。